



ガチャガチャで 広がるコミュニティ!!



2つ、町の楽しい「ふんちく」やクーポンが付属!

カプセルの中に入っているのは、じつは小判札だけではない。なんと、市川市にある町に関する内容の「ふんちく」が書かれたミニブックと、市内の協力店舗で使うことができ「クーポン」が付属するのだ。「ふんちく」には町の特徴や見どころ、歴史などが紹介されており、知識を深めることができるほか、市川市に遊びに来た際に参考にすることができる。クーポンは40を超える市内の飲食店や商業施設で使うことが可能で、お得にサービスを受けられることができる。「ガチャを回すだけでは終わらない、回したあとに「ミニブック」がもらえるというところから、このガチャガチャのイチオシポイント」だといふ。

▲ミニブックの下部にはクーポンが、



そして3つ、小判札以外の展開!

「市川まちガチャ」は、小判札以外にもノスタルジックなデザインが特徴のミニブックがあったり、期間限定の「市川まちガチャドリンクスタンド」(終了済み)や「市川まちガチャ展」(終了済み)が開催されたりと広く展開されている。

2023 3.25 Sat 4.9 Sun
市川まちガチャ展
いしかわ

▲町をイメージして作られたというドリンクの数々、エスリパーブルーは江川川

▲この中巻は、あるドラマやある商品のパロディのイメージや、世代によっては懐かしく感じる……

2023 8.26 [Sat] 11:00-18:00
シャワーホール 817 たへるば

市川まちガチャの
町をイメージした
ドリンクを販売!

**町を知って
つながる!**

市川市には、おもしろい地名や珍しい地名が多数存在する。そんな地名を小判札のガチャガチャにした、地域を盛り上げる画期的な「市川まちガチャ」を、ご紹介！手付けたのは、文庫のクリエイティブユニットであるミカヅキデザイン(原田 隆太郎さん、45)と彼の妻生田さん(40)。今回はこの2人に「市川まちガチャ」の制作について話を聞いた。

市川まちガチャ

300円

「市川まちガチャ」3つの特徴!!

1つ、地元愛をこめこめる工夫!

色とりどりの小判札に書かれているのは、市川市の町名。注目すべきは、カタカナで書かれた町名のフォント。これらのフォントはなんと、すべてデザイナーである2人のオリジナルだといふ。例えばバラキ(原木)は熊鷹のようなトゲトゲしたフォントに「オース(大池)は熊鷹をイメージして勢いのある形にしているそう。文字のイントネーションや書き、町名の漢字をカタカナのフォントで表示。デザイナーの2人だからこそできた工夫の数々だ。

▲オニコエ(鬼越)は鬼のように尖ったフォントになるのかと思いきや、あえて丸くしてキャラクターを持たせているそう。遊び心も溢れていた。

2つ、人気のママ(真田)小判札は、オンラインショップでも200個限定で再販したそう!

市川ママ祭特別小判札
限定200個再販します!

Thank you 2023

Thank you 2023

「市川まちガチャ」への思い

「市川まちガチャ」を立ち上げるまでは、地域活性化の事業をやっていたという2人。2022年の3月に始めた「市川まちガチャ」はその延長線で、市川市全体のガチャガチャを作ってコロナ禍で苦しむ飲食店を助けるほか、「ガチャをとおして町に出るきっかけをつくりたい」と思ったのが始まりだそう。しかし、意外にもガチャガチャについて右も左もわからない状態からのスタートだったという。

生屋ラインの安定や筐体の確保など、さまざまな困難に直面したが、のちに市川まちガチャ実行委員を結成しメンバーが増えたことで落ち着いたそう。現在は7人のメンバーで活動に励んでいる。

このガチャガチャを通じて、町に愛着を持っている人がたくさんいることに気づく。市川市民から愛されたこのガチャは、感謝に弾を兼ねながら、人と町をつなげる架け橋になっていく。

▲筐体には、市川市民による町への思いの寄せ書きが、

▲ミカヅキデザイン

ミカヅキデザイン

地球も、地域も、助ける活動



「地球も、地域も、助ける活動」の活動の中心は、子どもたちへの食育教育と、食料のロス削減です。子どもたちが、食料のロス削減のために、お金の節約や、お金の寄付をすることで、食料のロス削減に貢献しています。また、子どもたちが、食料のロス削減のために、お金の節約や、お金の寄付をすることで、食料のロス削減に貢献しています。

「ハビタベ」の効果は？

2023年2月に導入した「ウオロク」では、なんと実施3カ月後の実績として、廃棄を昨年同期と比べて24%も減少させることに成功した。加えて、「フードバンクしばた」に約15,000円分の寄付をするこもできたそう。そんな素晴らしい効果を発揮した「ハビタベ」だが、プロジェクト開始直後は導入先のスーパーマーケットがなかなか見つからなかったそう。実績がないゆえに、スーパーマーケットから「実施するこもで本当に効果を得ることが出来るのか」と不信半端に思われ、なかなか実施に至らなかったという。



過去に、「ハビタベ」に参加した方々も「好きなお菓子一つ持っておいで」と、お菓子本編から選んだことあるそう。お菓子と買物客のローカルな距離感が、「ハビタベ」をより良いものになっている。

今後の「ハビタベ」は？

「ハビタベいいよねー」「ハビタベやった？」など、スーパーマーケットを利用するすべての人々の日常会話で、名前が上がるようなプロジェクトにしたい」と濱田さん。今後、千葉県と愛媛県での展開も検討している。「ハビタベ」は「ハビネス」と「食べる」を掛け合わせた造語。その名の通り、食品をおとしてスーパーマーケットと買物客がともに笑顔になるこのプロジェクトは、これからも多くの人々に愛されていくだろう。「ハビタベ」の発展に期待が高まる。



「ハビタベ」の寄付用ポスター。フードバンクしばたへ寄付することができます。

ガチャガチャで食品ロス削減に貢献「ハビタベ」！

誰もが少なくとも一度はやったことがあるであろうガチャガチャ。ショッピングモールや飲食店などさまざまな商業施設にある、言わずと知れた子どもに人気のエンターテインメントである。お金を入れ、筐体のダイヤルを回すその動作は子どもを虜にする。そんなガチャガチャだが、日々、家計を気にする親からすれば、あつという間にお金を吸い込んでしまふ恐ろしい存在。しかし、子どもは、「ガチャガチャ回したい」と親にせがむ。そんなジレンマというべき状況に、ミライデザインG X代表取締役の濱田さん(50)は目をつけた。なんと子どもにガチャガチャを回させて楽しませることと親の節約を両立し、そしていちばんの目的である食品ロス削減に貢献することが出来るプロジェクトを考案したのだ。



「ウオロク」の公式キャラクター「ウオたん」と「ハビタベ」のコラボレーション。

▲千葉県では、新築市街地の「ウオロク」駅前、山新野店・住吉店・コモ店・小倉店の5店舗にて展開されている。

ガチャガチャのはじまりと寄付ガチャ 日本と海外との関わり

すべての始まりは、1980年に米国で生まれたお菓子の自動販売機。キャンディーやガムを売る販売機は、駅のホームに設置されるなど順調に数を増やす。1930年には、お菓子だけではなく小さなおもちゃも入れるようになり、子どもたちが絶大な人気を獲得する。カプセルトイの誕生だ。

その後の1985年2月17日、ベネチア州ピッツパグにある「ベネチンガカンパニー」のオーナーをしていたハードマンが、パンアメリカン貿易会社社長の重田哲夫にカプセルトイビジネスの存在を伝え、のちに重田はベネチア商会を設立。初めて日本にカプセルトイの文化を広めたほか、日本製や香港製のおもちゃを販売するようになる。



▲日本ガチャガチャ協会が企画したウクライナの子どもに寄付する「ドネーションガチャ」。

日本ガチャガチャ協会 | ステイトメント

私たちは、世界に広がるウクライナの子どもの苦しみや悲しみを、お菓子の力で癒すことを目指しています。「ガチャガチャのある国は平和です」を合言葉に、みんなを笑顔にしたいと考えています。

ウクライナは、戦火に包まれているウクライナの子どもの苦しみや悲しみを、お菓子の力で癒すことを目指しています。「ガチャガチャのある国は平和です」を合言葉に、みんなを笑顔にしたいと考えています。

「ガチャガチャのある国は平和です」

一日も早くウクライナの子どもの苦しみや悲しみを癒すように！

Donation Gacha
Peace in a country with GachaGacha

情報提供
小野尾勝彦さん
株式会社築地ファクトリー代表取締役
一般社団法人日本ガチャガチャ協会代表理事



▲消費期限が近い商品に貼られた「ハビタベ」のシール。麺類、惣菜など、さまざまな商品に貼られている。

消費期限が近い一部の商品に貼られた「ハビタベ」専用のシール。購入後、このシールを専用の台紙に貼り10枚集めることで、商品が当たるガチャガチャを1回回すことができるほか、寄付活動に貢献することができる。

スーパーマーケットで起きる食品ロスの原因の多くは、消費期限が先の新しい商品が、古い商品よりも先に買われてしまうことよって起るそう。より日持ちする商品が欲しいと思う気持ちの表れだが、結果的に消費期限が近い商品を廃棄に追い込んでしまっているのだという。

「ハビタベ」は、そんな自身の狭い消費期限が近い商品に専用のシールを貼ることで解決。ガチャガチャを回し食品を得ることができるといふメリットを付与することで、消費期限が近い商品を客自らが買おうと思える環境づくりが成功した。買い物客が子どもを持つ親であれば、安く商品を買うことができるうえに、シールを集めれば実質無料で子どもにガチャガチャを回させて楽しませることが出来る。まさに、Win-Winで理想的なプロジェクトだ。

どんな子どもでも ワクワクできる公園に！

変わった形をしているブランコやすべり台、普通の公園では見かけない珍しい遊具の数々。これらの遊具は「インクルーシブ遊具」と呼ばれている。その目的、価値、存在意義について知った時、遊具や公園の見方が大きく変わるかもしれない。



びあパーク妙典
千葉県市川市下妙典 941 - 3
東京メトロ東西線「妙典駅」から徒歩約 15 分

インクルーシブ遊具が

当たり前になる未来へ

正式な分類はなく、まだできて間もないカテゴリーであるインクルーシブ遊具。遊び場におけるインクルーシブは、「障がいの有無や年齢に関係なくあらゆる人が集う」という意味。日本ではここ3年間に、200カ所以上でインクルーシブ公園が導入されている。今までは、「子どもが公園に合わせなければいけない」という考えがあり、適応できない子どもは公園に行きにくかった。だが、公園が変わることによって、誰もが遊べる公園になるのがインクルーシブ公園である。



福田英右さん (48)
株式会社コトブキ 営業本部営業推進部
営業のサポートをしつつ、インクルーシブについての説明をおこなっている。

株式会社コトブキ
1914 (大正3) 年、東京・数寄屋橋で創業。公共施設、遊具事業などにおける開発、設計、製造、販売をおこなっている。個々のオープンスペースに合わせた製品選定やデザイン、配置計画等を提案している。

コトブキでインクルーシブ遊具を開発するようになった経緯を教えてください。

コトブキの社長が2018年ごろに海外に行つて、いろいろなインクルーシブ遊具があるのを見たそうです。そこから、インクルーシブの意味を調べてみようかと会社で調査をしていました。また、ちょうど同じころ、日本においてもインクルーシブ遊具の注目度も高まってきたので、インクルーシブ遊具の開発に至りました。

「インクルーシブな遊具を考えると、大切にしていることはありますか？」

利用者の意見を聞くことと、実際に利用者に使ってもらつて、そのフィードバックをもとに作ることで、さまざまな人が一緒に過ごしている空間のことを指します。ユニバーサルデザインの遊具を作るだけであれば、図面上の作業のみで作れます。ですが、それだけでなく、まだ遊び場に来られない人、使いにくい人がいると思うので、利用者の声を聞くことを大切にしています。

「インクルーシブ遊具の魅力や、普通の遊具とは違う点は何でしょうか？」

イメージをぶち壊してしまうことを言うと、インクルーシブ遊具はミラクル遊具ではないのです。使う人次第。インクルーシブ遊具さえあれば、障がいのある人もない人も公園に来て遊べるようになる、というふうには思われたいくないですね。遊具以外のメンタル的な不安や、場の過ごし方、快適さなどを考えて初めて、インクルーシブ遊具が役に立つと思います。

「そもそも障がいのある子どもとうと車椅子を使うと想像しがちなのですが、発達障害とか知的障害の子どもが圧倒的に多いのです。例えば年齢的には7歳だけど、気持ちの部分ではまだ2〜3歳の子どももいます。そういう子どものために遊具の年齢の幅を持たせたり、心理的な不安を少なくしたりする必要があります。遊具だけではなく、諸々の問題をまとめて考えるみたいな感じですか？」

「これからの遊具、公園を作っていくためには、インクルーシブ遊具が存在しない公園」です。インクルーシブ遊具が当たり前で、いちいちインクルーシブ遊具と言う必要がない。遊具が自然とそういう構造になっていて、当たり前の人が集まって、公園にトイレがある。インクルーシブ遊具が当たり前になる未来がいいかなと思います。



福田さんのおすすめの遊具



セレベル

全身を使って遊んでいる子どももいるネット型の遊具。この遊具自体がインクルーシブ遊具ではなく、自閉症の子どもなどが遊ぶ楽器遊具と一緒に設置してあることが多い。地面から立ち上がっている遊具だと、車椅子の子どもも同じ空間で遊ぶことができるのが良い点。



ベッドジャンパー

上下に跳ねて遊ぶトランポリンのような遊具かと思いきや、子どもたちの発想だとこの上で踊り出したり、寝転んだり、さまざまな自由なスタイルで使うことができる。寝転がっても痛くない柔らかさで、危険を感じることなく、至近距離で一緒に遊べる遊具。

従来の遊具



インクルーシブ遊具と従来の遊具を比較

インクルーシブ遊具



車椅子から乗り降りやすい設計に。



サポート付き & 複数人で乗れるブランコ。